

# コードレス検助V

Cordless

## 畳検寸器 コードレス検助V 取扱説明書

安全にお使いいただくために、ご使用前に必ずお読みください。

この度は畳検寸器「コードレス検助V」をお買い上げいただきありがとうございます。

この取扱説明書は、本製品を安全にお使いいただくための事柄を記載してあります。ご使用前に、本書を最後までよくお読みのうえ、正しくお使いください。また、本器をご利用のさい、必要なときすぐに利用できますように本書を大切に保管しておいてください。

## ●目次

<b>【1】 注意事項</b> . . . . .	1
<b>【2】 各部名称</b> . . . . .	2
<< 2-1 >>測定部名称 . . . . .	2
<< 2-2 >>本体部（受信部）名称 . . . . .	4
<< 2-3 >>操作キー／スイッチの説明 . . . . .	5
<b>【3】 通信の設定と測定データの送信</b> . . . . .	6
<< 3-1 >>無線電波通信に設定する方法 . . . . .	6
<< 3-2 >>赤外線通信に設定する方法 . . . . .	9
<< 3-3 >>寸法データの送信のしかた . . . . .	11
<< 3-4 >>データ送信の成功失敗の確認方法 . . . . .	14
<b>【4】 基本的な測定方法</b> . . . . .	15
<< 4-1 >>測定操作の流れ . . . . .	15
<< 4-2 >>基本的な測定操作 . . . . .	16
<< 4-3 >>高度な測定方法 . . . . .	23
●巾寸法補正值の入力方法 . . . . .	23
●巾寸法補正值の確認方法 . . . . .	24
<< 4-4 >>寸法の手入力方法 . . . . .	25
<< 4-5 >>ミリ単位測定の方法 . . . . .	26
<b>【5】 特殊な設定・使用方法</b> . . . . .	27
<< 5-1 >>「一枚送りモード」 . . . . .	27
<< 5-2 >>測定部内の測定データ消去方法 . . . . .	28
<< 5-3 >>全体補正值の設定方法 . . . . .	30
<b>【6】 その他の表示</b> . . . . .	31
<b>【7】 使用できる電池と充電器</b> . . . . .	33
<< 7-1 >>充電注意事項 . . . . .	33
<b>【8】 トラブル対処方法</b> . . . . .	34
<b>【9】 仕様、付属品、オプション</b> . . . . .	36

## 【1】注意事項

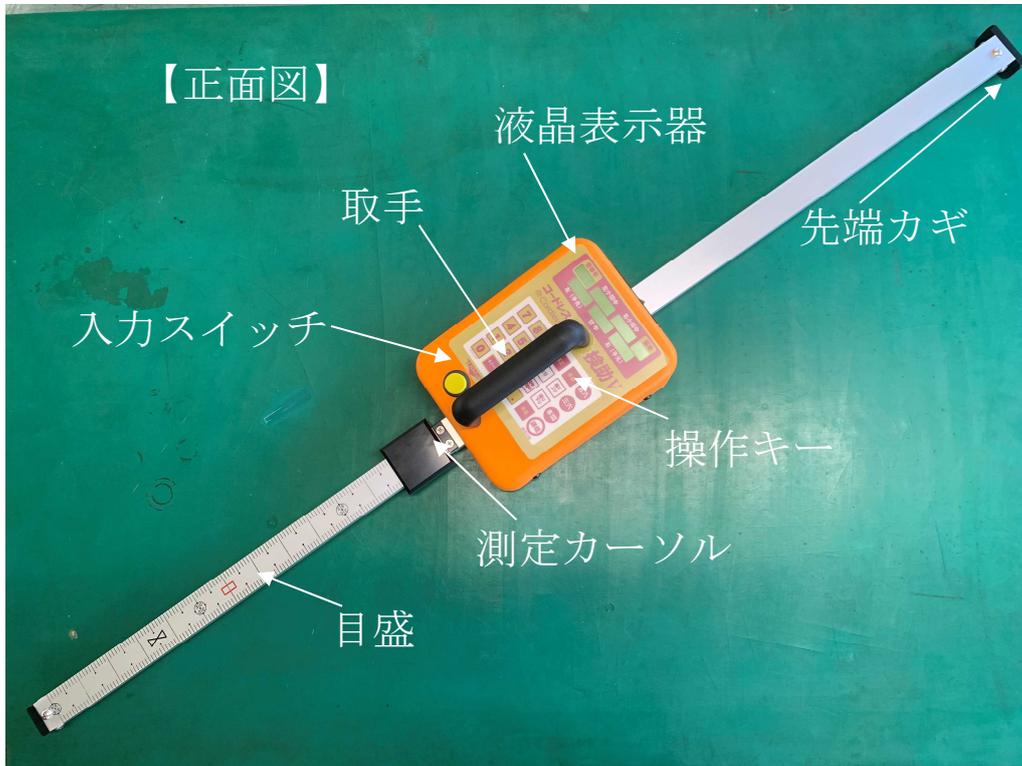
本器は、正しい取扱と定期的な保守・点検が必要です。ご使用前に、この取扱注意事項をよくお読みの上、正しくお使いください。

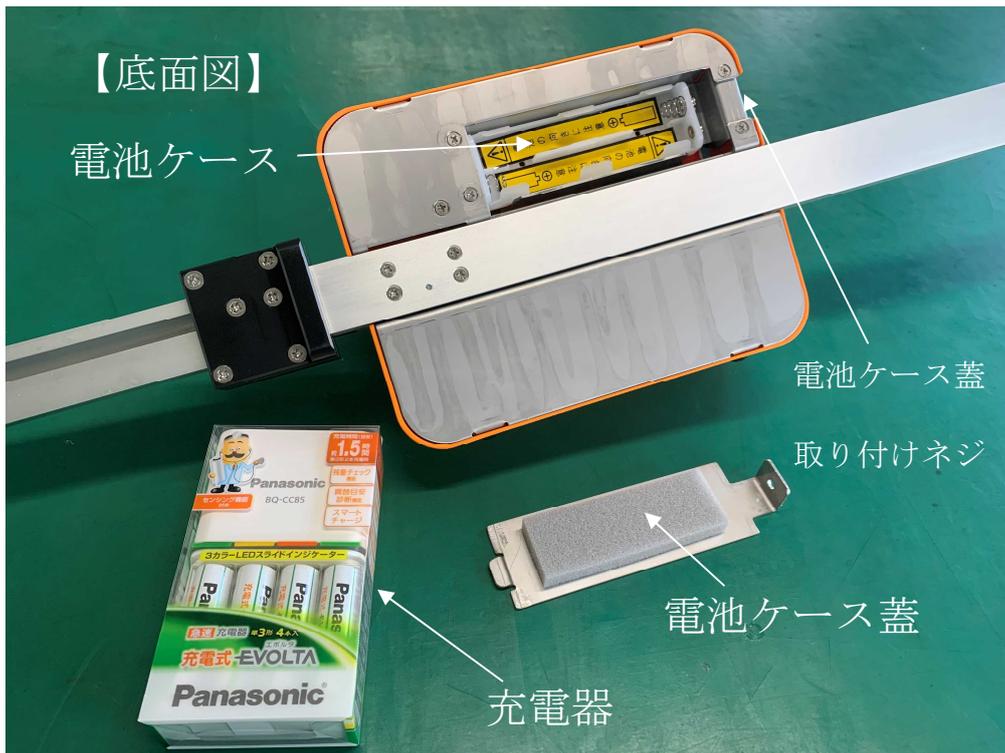
安全上のご注意（必ずお守りください）。

- [△危険] 充電式ニッケル水素電池の充電、および電池の取扱の際は、同梱の充電器に添付されている取扱説明書に記載されている、[△危険]、[△警告]、[△注意]の内容を厳守すること。
- [△警告] 充電式ニッケル水素電池、およびアルカリ乾電池などの電池のプラスとマイナスを逆にして、本器の測定部の電池ケースに装着しないこと。
- [△警告] 充電式ニッケル水素電池とアルカリ乾電池などを混合して、本器の測定部の電池ケースに装着しないこと。
- [△注意] ケースを開けたり、改造したりしないこと。内部には歯車など尖った部品があります。また、故障の原因になります。
- [△注意] 無理な力をかけたり、落としたり、ぶつけたりしないこと。故障や、測定精度が狂う原因になります。
- [△注意] 濡れた手で操作しないこと。水分が付着すると故障の原因になります。
- [△注意] 直射日光の当たる所や、車中など熱い所に放置しないこと。湿気が少なく涼しい所に保管してください。
- [△注意] 静電気を帯びた手で触らないこと。サージ電圧による誤動作や故障の原因になります。乾燥期（2月、3月）など、自分が静電気を帯びている可能性があると思われる場合、アースにつながった金属（例えば、製畳機の脚や筐体の触っても安全な部分（制御盤は不可））を触って、自分の体の静電気を放電してから本器（コードレス検助V）を触る習慣をつけてください。
- [△注意] 0℃以上の室内で使用してください。0℃以下では、液晶表示が見えなくなることがあります。
- [△注意] コードレス検助Vの本体部とコードレス検助S 2の測定部を使用する際は、本体部の設定を赤外線に変更して、使用してください。

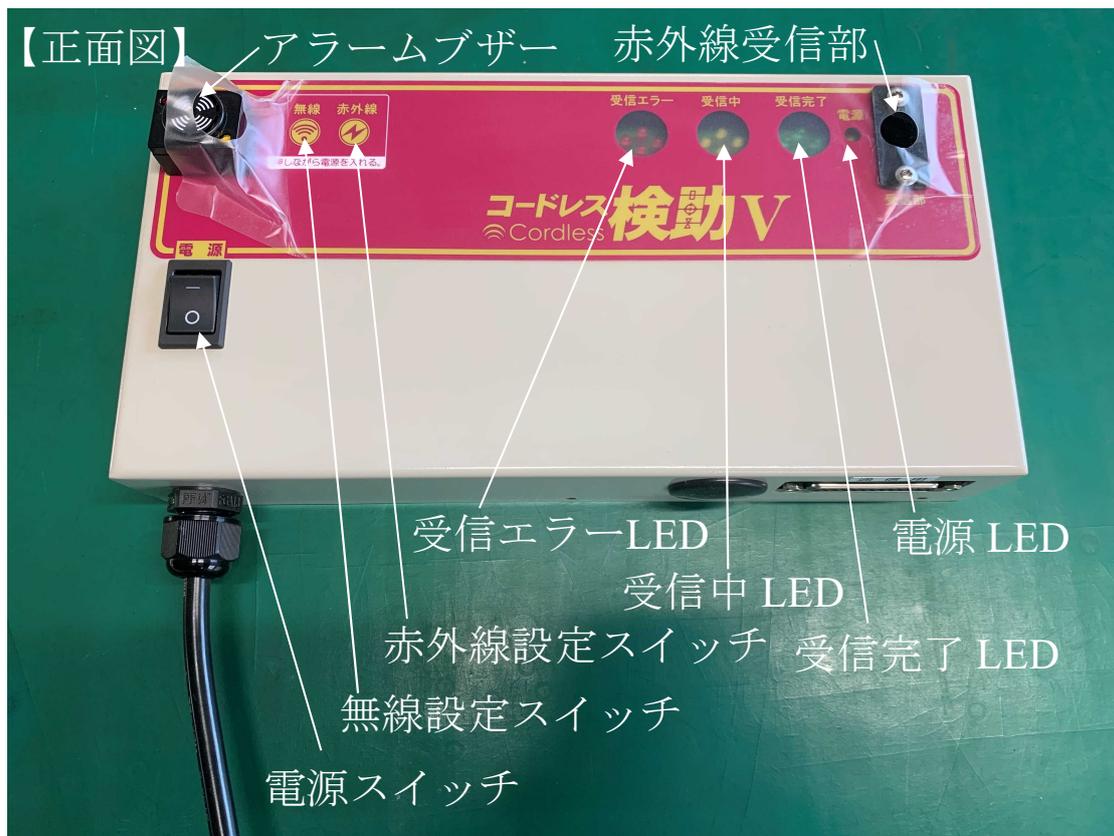
## 【2】各部名称

### 《2-1》測定部名称





《 2 - 2 》本体部 (受信部) 名称



## 《 2 - 3 》操作キー／スイッチの説明

### 【スイッチ配置図】



キー／スイッチ名	意味・使用目的
入力スイッチ	巾寸法を測定するとき、畳番号など入力した数値を確定するときなど、いろいろな場面で使うスイッチです。
数値キー (「0」～「9」キー)	畳番号、巾寸法、巾寸法補正值、丈寸法を入力するときを使うスイッチです。「0キー」は通信設定の時は「ペアリング」という意味になります。
+/-キー	巾寸法、巾寸法補正值、丈寸法を入力するとき、基準寸法からの大寸法(+)か小寸法(-)かを選択するときを使うスイッチです。
クリア(「C」キー)	畳番号、丈寸法などの入力した数値を取り消すときを使うスイッチです。
補正	巾寸法補正值を確認するときを使うスイッチです(押し続けている間だけ表示されます)。 また、全体補正值を設定するときにも使います。
間中 小間中	間中取りで測定するか、小間中取りで測定するかを選択するスイッチです。初期値は間中で、一回押すと小間中に切り替わり、もう一回押すと間中に切り替わります。
半畳	測定する畳が、一畳モノか半畳モノかを選択するスイッチです。
繰り上り 繰り下り	畳を一枚分測定した後、畳番号を1つ繰り上げるか、1つ繰り下げるかを選択するスイッチです。
消去	本体部のLEDを消すときや、ブザーを止めるときを使うスイッチです。また、測定データを消去するときにも使います。
五八、三六、本間、 ミリ	測定する畳基準を選択するスイッチです。
送信 (通信切替)	測定部内に記憶されている寸法データを本体部に送信する時を使うスイッチです。通信設定の時には「通信切替」という意味になります。

### 【3】通信の設定と測定データの送信

\*コードレス検助Vで測定した寸法データを本体部（受信部）に送る方法には、

- ・無線電波通信（Wi-Fi（2.4GHz））による方法
- ・赤外線通信（変調信号（38KHz））による方法

の2通りあります。

\*本器は赤外線通信方法に設定され出荷されています。無線電波通信で使いたい場合は、

＜3-1＞無線電波通信に設定する方法を実行してください。

#### [注意]

赤外線通信による方法を使用する場合は、本体部（受信部）の「赤外線受信部」に、直射日光が当たらない位置に本体部を設置してください。直射日光が当たると受信エラーになります。

#### [メモ]

一度設定した赤外線と無線の通信設定の内容は、電源をOFFしても記憶しています。都度設定する必要はありません。変更したい場合は、再度この手順で設定し直してください。

#### 【通信の設定では、下記のスイッチを使います】



#### ＜3-1＞無線電波通信に設定する方法

##### ＜無線設定 手順1＞

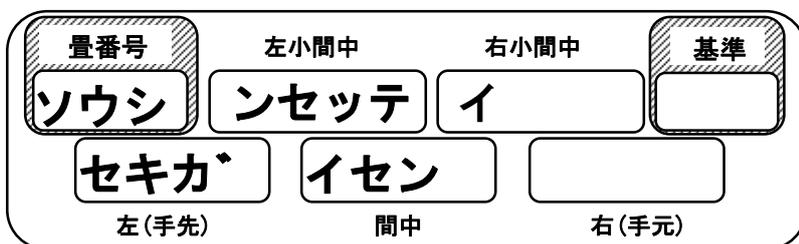
まず測定部を無線電波通信に設定する必要があります。

測定部の「通信切替スイッチ」を押しながら、測定部の「電源スイッチ」をONしてください。

すると、測定部のブザーが「ピー、ピピ」と鳴ります。

### <無線設定 手順2>

この時、測定部の液晶画面にどのようなメッセージが表示されているかを確認してください。  
工場出荷時のままの場合は、「セキガイセン」になっています。



「セキガイセン」になっている場合は、  
「通信切替スイッチ」を一回押し、「ムセン」に切り替えてください。



### <無線設定 手順3>

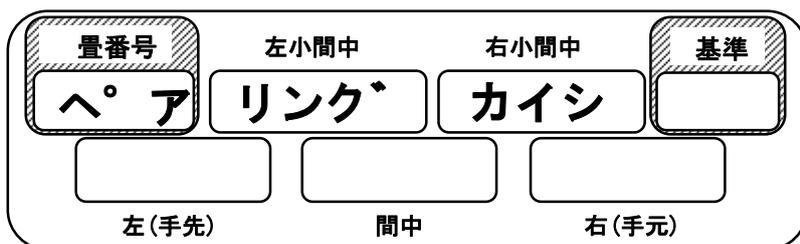
上記の様に「ムセン」が表示されている状態で「入力スイッチ」を押し、  
約1秒経過してから「電源スイッチ」をOFFしてください。  
この操作により、測定部のメモリーに「無線電波通信を使用する」という設定が記憶されました。

### <無線設定 手順4>

また、無線電波通信による方法を選択した場合には、続いて「測定部の電波送受信器」と「本体部の電波送受信器」のペアリング設定を行う必要があります。

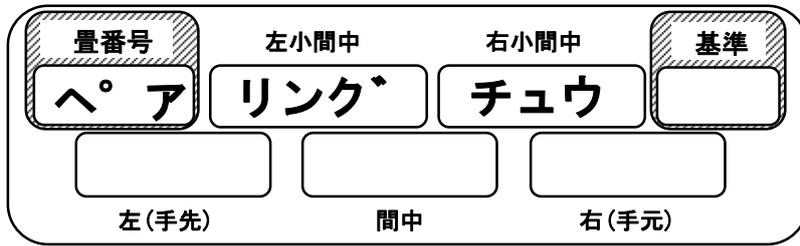
[ペアリングとは]  
電波送受信器には個別番号（ID）が設定されており、測定部のメモリーに「本体部の電波送受信器のID」を記憶させ、本体部（受信部）のメモリーには「測定部の電波送受信器のID」を記憶させることにより、お互いに通信相手を特定することです。  
これにより、近くに、Wi-Fi（2.4GHz）電波で通信している機器がある場合でも混信することなく通信できます。ペアリングしてないと通信はできません。

測定部の「ペアリング」キースイッチ（数字0）を押しながら、「電源スイッチ」をONしてください。  
すると、測定部のブザーが鳴った後、下記のメッセージが表示されます。



<無線設定 手順5>

上記の状態で「入力スイッチ」を押すと、ペアリングが開始され、下記のメッセージが表示されます。



[ペアリングに要する時間]

ペアリングには約5秒～20秒要します。Wi-Fi (2.4GHz) 電波で通信している機器が近くに多くあれば時間は多くかかります。

液晶画面を見ながら、そのままお待ちください。

<無線設定 手順6>

つぎに本体部（受信部）を設定する必要があります。

本体部の「無線電波設定スイッチ」を押しながら、本体部の「電源スイッチ」をONしてください。

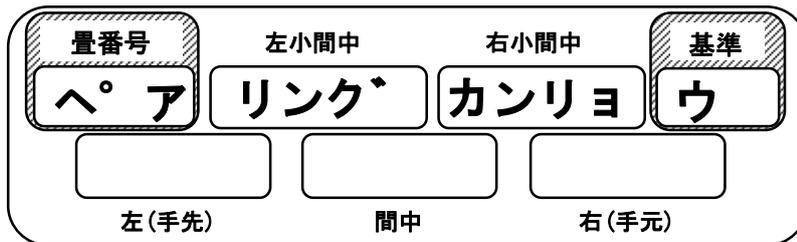
すると、本体部のブザーが「ピッ、ピッ、ピッ、ピッ、ピッ、ピッ」と鳴り、本体部の緑色のLEDが点灯して、すぐに消灯します。

この操作により、本体部のメモリーに「無線電波通信を使用する」という設定が記憶されました。

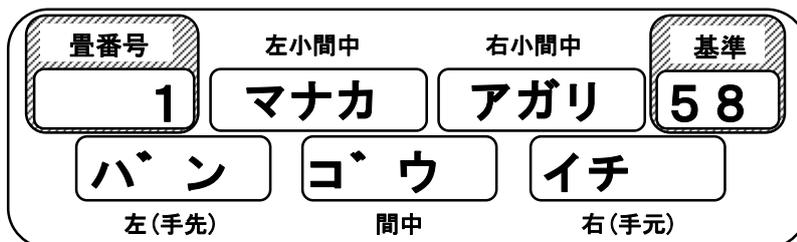
本体部はこのまま電源ONの状態にしておいてください。

<無線設定 手順7>

ペアリングが完了したら、下記のメッセージが約1秒間表示され、



下記の画面に切り替わって止まります。



以上の操作により、無線電波通信による方法に必要な設定がすべて完了しました。

寸法測定を開始してください。

### ＜ 3 - 2 ＞ 赤外線通信に設定する方法

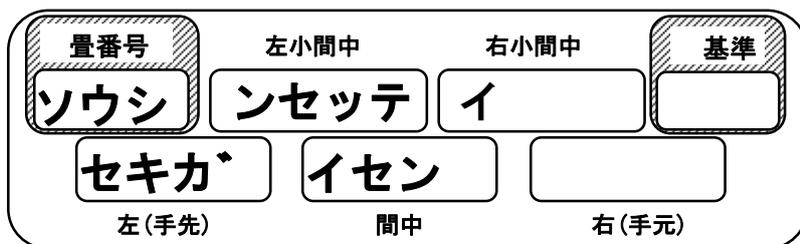
#### ＜赤外線設定 手順1＞

続いて測定部を赤外線通信に設定する必要があります。

測定部の「通信切替スイッチ」を押しながら、測定部の「電源スイッチ」を ON してください。  
測定部のブザーがピー、ピピと鳴ります。

#### ＜赤外線設定 手順2＞

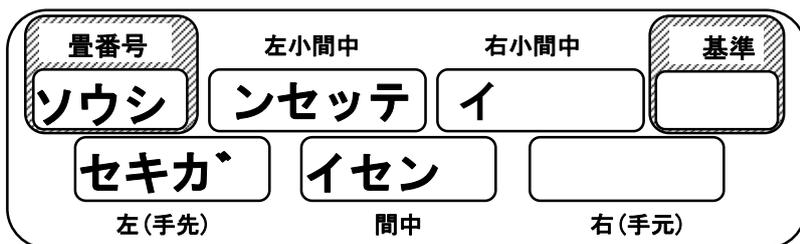
この時、下記のようなメッセージが表示されているか確認してください。



上記の様に「セキガイセン」が表示されていたら、手順3に進んでください。  
一方、下記のように「ムセン」が表示された場合は、



「通信切替スイッチ」を押してください。  
そうすれば、下記のように「セキガイセン」に替わります。



#### ＜赤外線設定 手順3＞

上記の様に「セキガイセン」が表示されている状態で「入力スイッチ」を押し、約1秒経過してから「電源スイッチ」を OFF してください。

この操作により、測定部のメモリーに「赤外線通信を使用する」という設定が記憶されました。

#### <赤外線設定 手順 4>

つぎに本体部を設定する必要があります。

本体部の「赤外線設定スイッチ」を押しながら、本体部の「電源スイッチ」を ON してください。

本体部のブザーがピッ、ピッ、ピッ、ピッ、ピッ、ピピッと鳴り、本体部の橙色の LED が点灯した後、すぐに消灯します。

この操作により、本体部のメモリーに「赤外線通信を使用する」という設定が記憶されました。

赤外線通信による方法に必要な設定が完了しました。寸法測定を開始してください。

赤外線通信による方法ではペアリング設定は行いません。

本体部を赤外線モードで起動させると、ペアリング情報はクリアされます。

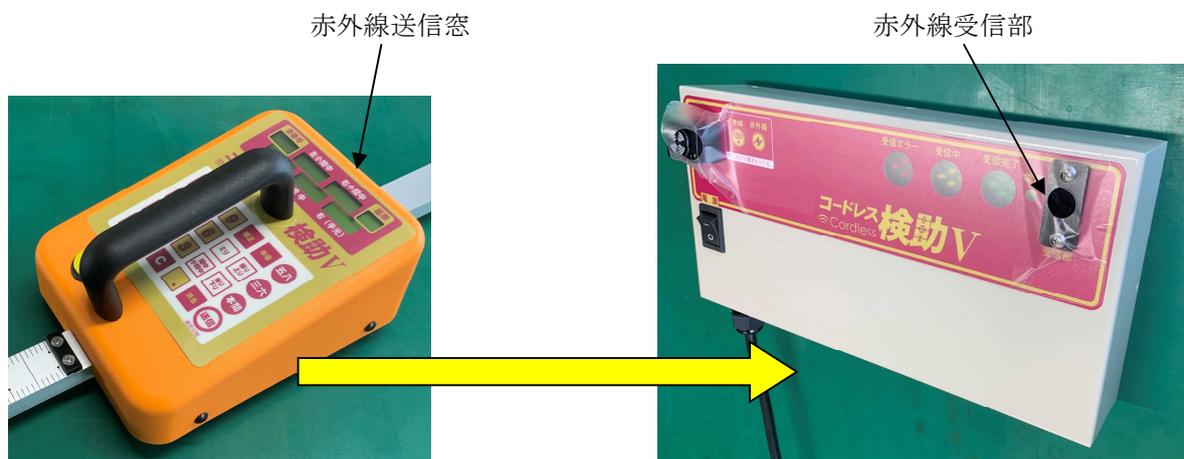
本体部は、無線モードで起動していてもペアリングされていれば、赤外線通信ができます。

### 《 3 - 3 》寸法データの送信のしかた

#### ＜赤外線の場合の向き＞

- ・測定部の赤外線送信窓を本体部（受信部）の赤外線受信部に向けて保持してください。

#### 【赤外線の場合】



「狙いを定める。」

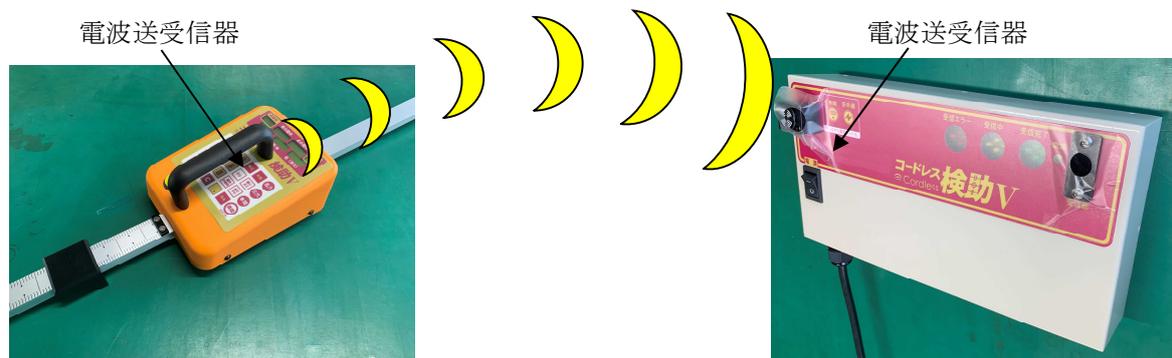
#### [注意]

寸法データを送信している時に、すぐ近くでテレビやエアコン等のリモコンを操作しないこと。  
通信エラーになる場合があります。

#### ＜無線電波の場合の向き＞

- ・測定部がどの方向を向いていても送信できます。狙いを定める必要はありません。

#### 【無線電波の場合】



「狙わなくても良い。」

<データ送信の手順>

\*「赤外線通信方法」の場合も「無線電波通信方法」の場合も、寸法データを送信する際の操作手順は同じです。

<送信手順 1>

測定部の「送信キースイッチ」を押してください。

<送信手順 2>

測定部から本体部へ向けて寸法データが符号化されて送信されます。

送信されている間、本体部（受信部）の「**受信中 LED（橙）**」が点灯しています。

[送信時間の目安]

畳 6 枚分のデータを送信し終わるのに

「赤外線の場合＝約 3 秒」、「無線電波の場合＝約 2 秒」要します。

<送信手順 3>

送信が終わると本体部（受信部）のブザーが鳴り、下記の画面が表示されます。

【無線電波による方法の場合】



あるいは、



「ソウシンエラー」の場合はもういちどやり直してください。

【赤外線による方法の場合】

<通信確認画面>



この時、本体部（受信部）では、

- ・ 「受信エラーLED（赤）」
- ・ 「受信完了LED（緑）」

のいずれかが点灯しています。

- ・ [受信完了LED（緑）] が点灯している場合は、寸法データが正常に送信できています。
- ・ [受信エラーLED（赤）] が点灯している場合は、寸法データはうまく送信できていません。もう一度「送信」キースイッチを押して、やり直してください。

<送信手順 4>

最後に、測定部の「消去」キースイッチまたは「入力スイッチ」を押してください。[受信完了LED]を消すためのデータを送ります。「消去」キースイッチを押した場合、測定データも消去されます。

本体部が[受信完了LED]を消す為の信号を受信したら、[受信完了LED]は消灯します。

[受信中LED（橙）]も[受信完了LED（緑）]も[受信エラーLED（赤）]も消灯していて、ブザー音も停止状態に戻れば、データ送信の操作は完了です。

[メモ]

必ずこの状態に戻しておいてください。

次の「データ送信」の操作で、LEDの状態を見誤る恐れがあります。

#### 《3-4》データ送信の成功/失敗の確認方法

コードレス検助Vでは、本体部（受信部）のLEDの点灯/点滅パターンを変えることより、

- ・測定部と本体部（受信部）の間のデータ送信の成功/失敗。
  - ・「コードレス検助V」の本体部（受信部）と「CSマイコン」とのCS転送の成功/失敗。
- を表します。

#### LEDの点灯のパターン

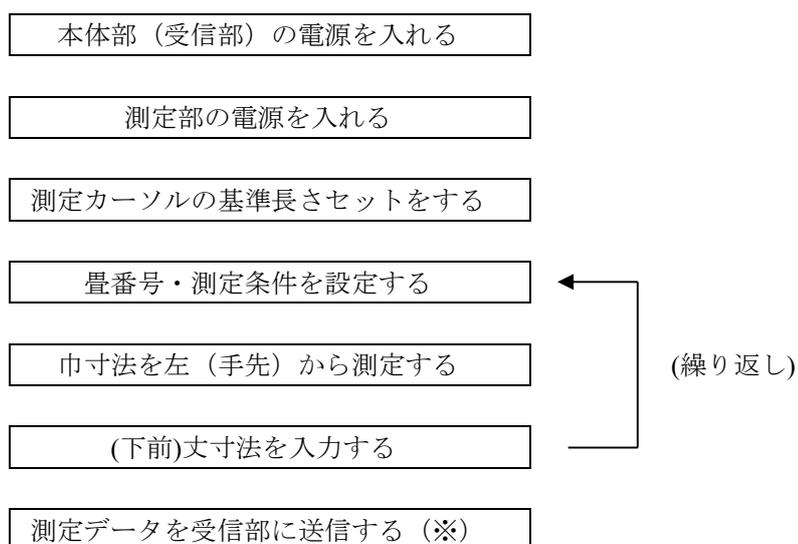
- ①「受信完了LED（緑）」のみ点灯  
データ送信 成功。
- ②「受信中LED（黄）」のみ点灯  
データ送信中。
- ③「受信中LED（黄）」点灯で、「受信エラーLED（赤）」が点滅  
測定部と本体部（受信部）の間のデータ送信の失敗。  
原因を調べて操作をやり直してください。
- ④「受信中LED（黄）」と「受信エラーLED（赤）」が共に点滅  
受信部と当社CSマイコンの間のCS転送の失敗。  
原因を調べて操作をやり直してください。

## 【4】 基本的な測定方法

ここでは、まず [測定カーソルを用いた測定方法] について説明します。[《4-1》測定操作の流れ] から [《4-2》基本的な測定操作] までをお読みください。

また、[ (数値キーを用いた) 巾寸法の手入力方法 ] により寸法を数値で直接打ち込むこともできます。この場合、併せて [《4-4》寸法の手入力方法] もお読みください。

### 《4-1》測定操作の流れ



#### [メモ]

送信せずに、測定部に測定データを蓄えておくこともできます。  
測定部に蓄えておくことができる枚数は、最大30枚分です。

## 《4-2》基本的な測定操作

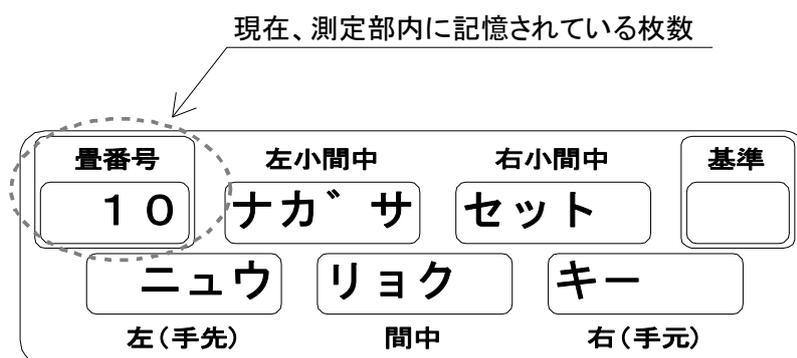
### (1) 本体部（受信部）の電源 ON

本体部（受信部）の電源を入れると、本体部（受信部）のブザーが「ピッ、ピッ」と鳴ります。

### (2) 測定部の電源 ON

測定部の電源を入れると、測定部のブザーが「ピッ、ピッ、ピッ、ピ、ピ」と鳴ります。測定部の液晶表示器には、以下の内容が表示されます。

#### <基準長さセット画面>



### (3) 測定カーソルのセット

基準長さセットのため、測定カーソルをカーソルストップへしっかりと押し当てたまま、「入力スイッチ」を押してください。



カーソルを戻していない。

カーソルを戻して根元に押し当てる。

#### [注意]

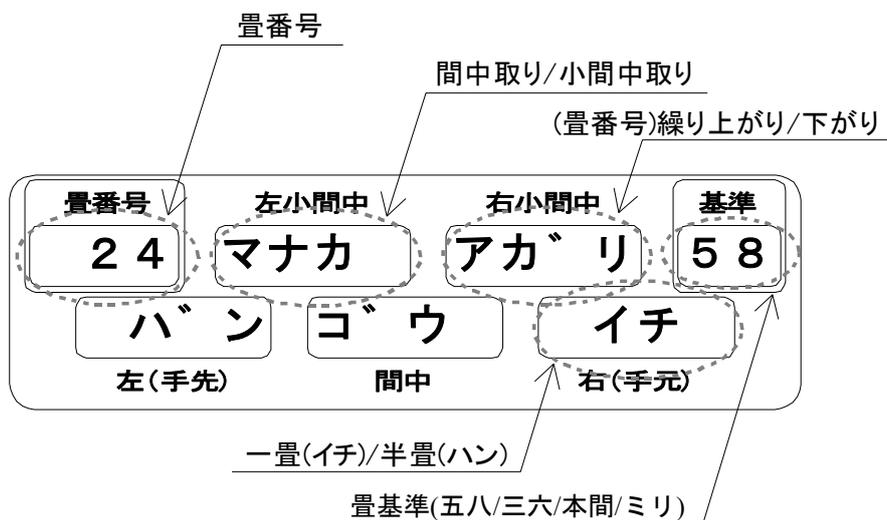
基準長さセットは、寸法測定作業を行う前に必ず実行してください。

(4) 畳番号、測定条件の設定

畳番号、および測定条件を設定し入力します。

畳番号の入力には「数値」キースイッチを、測定条件の変更には「五八」「三六」「本間」「ミリ」「間中」「小間中」「半畳」キースイッチ、「繰り上がり」「繰り下がり」のキースイッチを使います。

<畳番号・測定条件設定画面>



表示欄	表示内容	意味	切り替え/変更方法
畳番号	(数値)	畳番号	「数値キー」で畳番号を入力
左小間中	マナカ	間中取りで測定	「間中、小間中キー」を押して 「間中」 <-> 「小間中」 交互に切替
	コマナカ	小間中取りで測定	
右小間中	アカ`リ	畳番号繰り上がり	「繰り上がりキー」 「繰り下がりキー」を押して切り替え
	サカ`リ	畳番号繰り下がり	
基準	5 8	畳基準 - 五八	「五八」 「三六」スイッチを押し切替え 「本間」 「ミリ」
	6 0	畳基準 - 三六	
	6 3	畳基準 - 本間	
	ミリ	畳基準 - 0mm	
右(手元)	イチ	一畳モノ測定	「半畳」を押して、 「イチ」 <-> 「ハン」 交互に切替
	ハン	半畳モノ測定	

右小間中欄の「アカ`リ」「サカ`リ」表示は、1畳分測定が終わったとき畳番号を繰り上げるか、繰り下げるかの区別を表しています。

「ミリ」では、0mm基準で測定し、送信時にミリ送信基準(五八、三六、本間)に換算し、送信します。ミリ送信基準は、「ミリ」キースイッチを押しながら「電源スイッチ」をONし、「ミリ」キースイッチを押すことで三六→本間→五八→三六と切り替えることができます。測定データごとにミリ送信基準を決めることはできません。

[メモ]

ここで入力する「畳番号」は、CSラインでの畳番号になります。1～499まで指定できます。

[メモ]

畳基準（「五八」「三六」「本間」「ミリ」）については、巾寸法を測定している途中でも変更することができます。

[メモ]

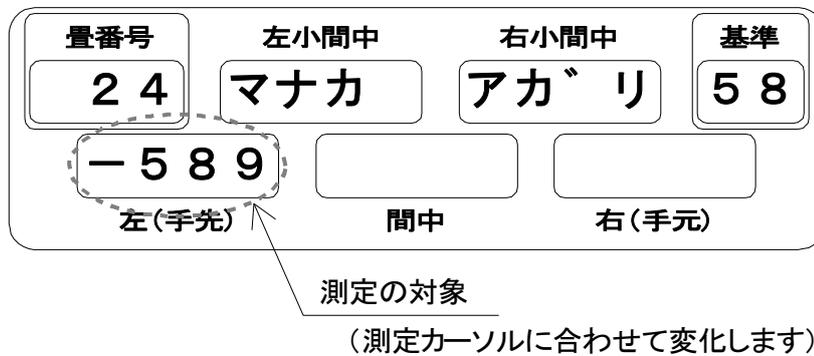
CSラインに測定データを転送する場合、CSマイコン側が「小間中」に対応していなければ、「コードレス検助V」で小間中測定を行っても、「間中」としてCSマイコンに転送されます。

[メモ]

畳番号の「繰り下がり」は、畳の積み替えなどで寸法の測定順序と縫着順序が入れ替わるときに利用すると便利です。

入力・設定が終われば、「入力スイッチ」を押してください。すると、<測定画面>になります。

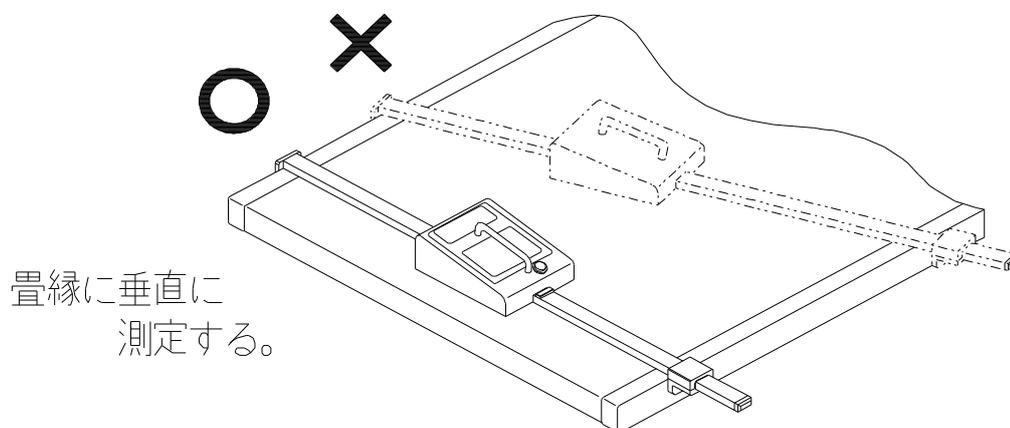
<測定画面>



<測定画面>では、現在測定の対象となっている箇所の寸法表示が、測定カーソルの移動に合わせて変化します。

(5) 巾寸法測定 (左 (手先))

測定する畳の下前側を手前にして置き、畳の左側 (手先) のところで、測定部先端のカギと測定カーソルで畳を挟み込みます。

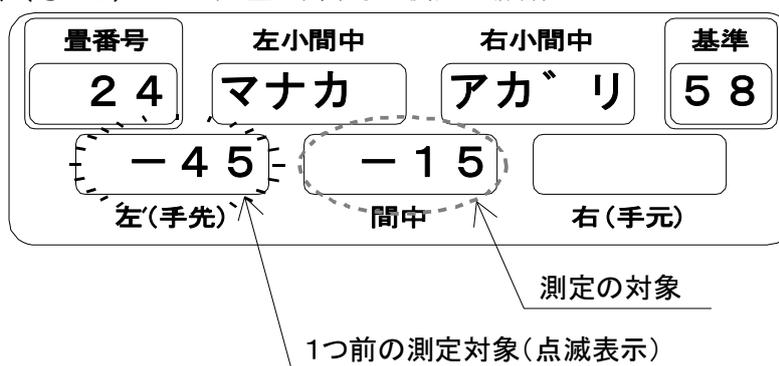


[メモ]

測定カーソルを床端に押し当てるとき、押し当てる力があまり強くなり過ぎないように注意してください。床材料の種類によっては、床端がへこみ、測定誤差となる場合があります。

「入力スイッチ」を押すと、左 (手先) の巾寸法を記憶し、次の測定点に移ります (<測定画面 (その2)>へ)。

<測定画面 (その2)> (一畳・間中取り測定の場合)

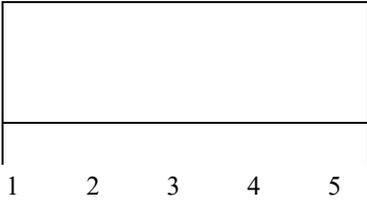
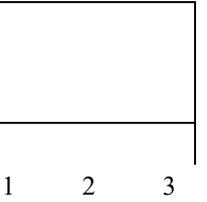


なお、1つ手前の測定箇所の寸法表示は、点減表示となります。この点減表示の測定箇所には、「巾寸法補正值」を入力する (→●巾寸法補正值の入力方法、参照) ことができます。

(6) 巾寸法測定 (左 (手先) 以降)

同様の操作を行い、左小間中、間中、右小間中、右 (手元) の各位置を順に測定していきます。なお、測定条件 (一畳/半畳、間中/小間中) により、測定する箇所と測定しない箇所があります。

(測定する箇所と、測定順序)

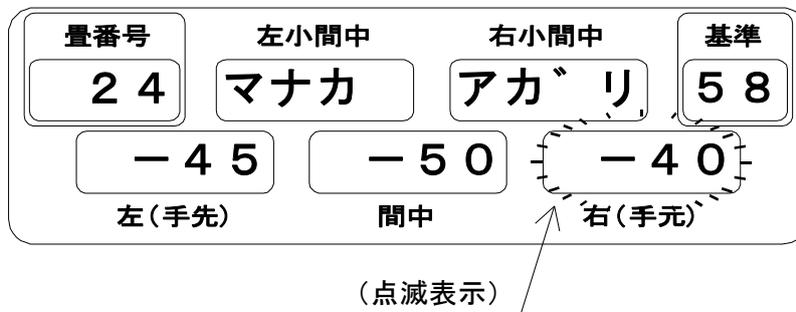
	一畳モノ	半畳モノ
間中測定	(上前側) 	(上前側) 
小間中測定	(上前側) 	(上前側) 

(※) 数字は測定する順序を表しています。

[メモ]

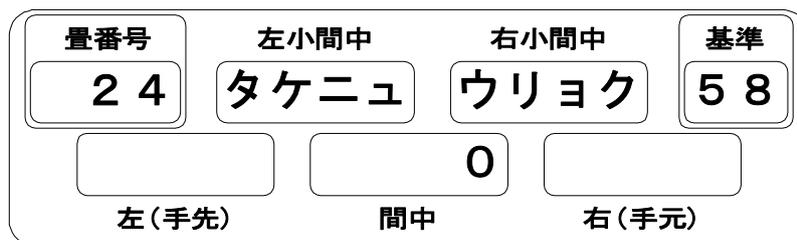
「消去」キーを押すことによって、1つ前の箇所の測定に戻ることができます。

最後の右 (手元) の巾寸法を測定した時点で、次のような画面になります (一畳・間中取りの場合)。



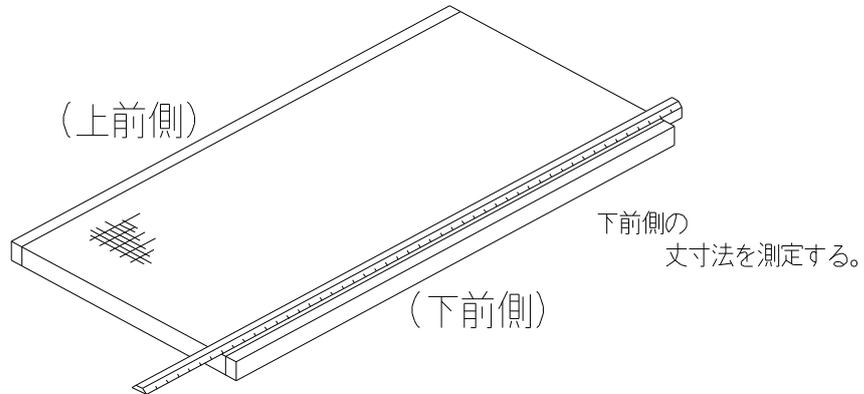
この段階では測定カーソルにて測定する箇所はありませんが、右 (手元) の測定寸法が点減表示となり、巾寸法補正值の入力 (→●巾寸法補正值の入力方法、参照) を待っています。巾寸法補正值を入力する必要がないときは、そのまま「入力スイッチ」を押してください。次の<寸寸法入力画面>になります。

<寸寸法入力画面>



(7) 寸法入力

畳基準からの下前寸法を「数値」キー、「+/-」キーにて入力し、最後に「入力スイッチ」を押します。



[メモ]

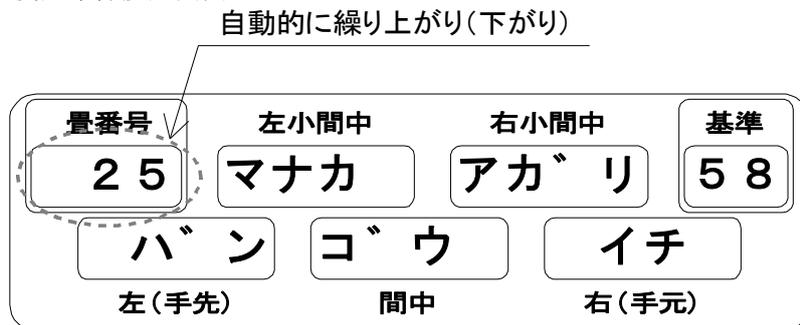
寸法として、ミリ以外では-1998厘~+1998厘（一尺九寸九分八厘小から一尺九寸九分八厘大）までの寸法を入力できます。ミリでは下表の通り、一畳と半畳で入力できる範囲が異なります。

寸法の入力可能範囲

基準	一畳	半畳
五八基準	-1998~+1998厘(3802~7798厘)	-1998~+1998厘(902~4898厘)
三六基準	-1998~+1998厘(4002~7998厘)	-1998~+1998厘(1002~4998厘)
本間基準	-1998~+1998厘(4302~8298厘)	-1998~+1998厘(1152~5148厘)
ミリ基準	1304.0~2362.5mm(4303~7796厘)	349.0~1483.5mm(1152~4896厘)

以上で、一畳分の寸法測定が完了します。畳番号が1つ繰り上がり（または繰り下がり）、<畳番号・測定条件設定画面>に戻ります。

<畳番号・測定条件設定画面>



[メモ]

測定条件（畳基準・一畳/半畳・間中/小間中など）の設定は、直前に測定した条件から引き継がれます。

(8) 測定データの送信

測定したデータを受信部側へ送信するために、測定部の「送信」キースイッチを押します。

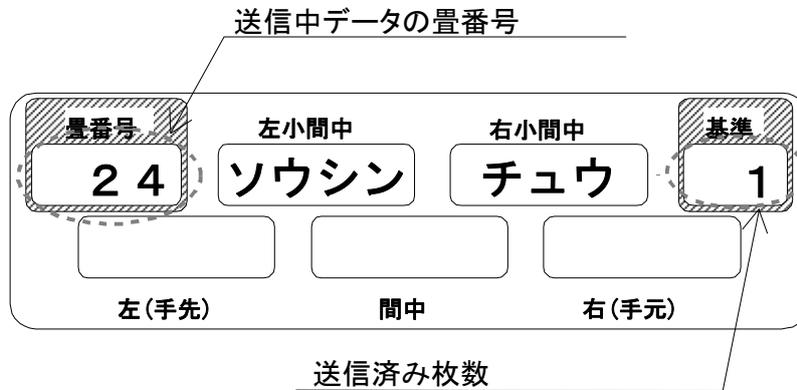
[メモ]

1枚分を測定するごとに、データを送信する必要はありません。測定部には、最大30枚分のデータを記憶することができます。1部屋分(6畳分、8畳分など)で区切って、送信すると便利です。

[メモ]

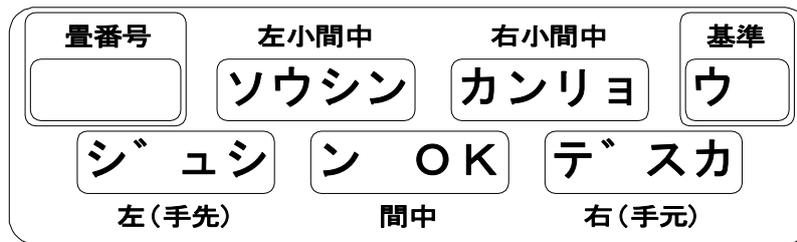
送信時、本間基準-1000厘以下の数値を持つデータ、またはミリ送信基準本間でミリ基準651.5mm以下の数値を持つデータは、三六基準に変換されます。これは、符号込み4桁で送信する仕様のため、符号込み5桁とならないようにするための処理です。

<測定データ送信中画面>



送信が終了すると、<送信確認画面>になります。

<送信確認画面>



このとき、受信部側で[受信完了LED(緑)]が点灯すれば、送信成功です。[受信完了LED]が点灯しない場合は、送信に失敗していますので、もう一度「送信」キースイッチを押してデータを受信部へ送信してください。

送信が成功した場合は、測定部を受信部へ向けて「消去」キースイッチまたは「入力スイッチ」を押してください。受信部の[受信完了LED]が消え、<畳番号・測定条件設定画面>に戻ります。

[メモ]

- 「消去」キースイッチを押した場合、送信したデータを測定部内から消去します。
- 「入力スイッチ」を押した場合、データを残したまま<畳番号・測定条件設定画面>に戻ります。

#### 《4-3》高度な測定方法

##### ●巾寸法補正值の入力方法

「コードレス検助V」では、巾寸法を測定する際に測定箇所ごとにそれぞれ補正值を入力することができます。

<測定画面 (その2)> (一畳・間中取り測定の場合)

畳番号	左小間中	右小間中	基準
24	マナカ	アカリ	58
-45	-15		
左(手先)	間中	右(手元)	

(測定カーソルによる) 測定の対象

補正值の入力対象(点滅表示)

上記の画面のように点滅表示となっている測定箇所に対して、巾寸法補正值を入力することができます。

実際に巾寸法補正值を入力するには、この画面のときに「数値」キースイッチまたは「+/-」キースイッチを押します。

<巾寸法補正值入力画面>

畳番号	左小間中	右小間中	基準
24			58
+5			
左(手先)	間中	右(手元)	

補正值の入力対象

巾寸法補正值の入力中には、入力の対象箇所以外の表示箇所はいったん消え、補正值の入力対象箇所のみが表示となります。

補正值を「数値」キースイッチ「+/-」キースイッチで入力し、最後に「入力スイッチ」を押すと補正值が計算、記憶され、もとの<測定画面>に戻ります。

<測定画面 (その3)>

量番号	左小間中	右小間中	基準
24	マナカ	アカリ	58
	-40	-15	
	左(手先)	間中	右(手元)

(測定カーソルによる) 測定の対象

補正値が加算された測定値

[メモ]

巾寸法補正値は、ミリ以外のとき-50 厘~+50 厘（五分小から五分大）の範囲で、ミリのとき-15.5mm~+15.5mm の範囲で入力でき、また巾寸法の5箇所それぞれに対して入力が可能です。

基準	巾寸法補正値の入力可能範囲
五八、三六、本間	-50~+50厘
ミリ基準	-15.5~+15.5mm

[メモ]

ミリ(0.5mm単位)で巾寸法補正値を入力したとき、厘に置き換えて計算している関係上、[補正前表示値+補正入力値]と[補正後表示値]の間に0.5mmの誤差が生じる場合があります。これは、1厘=0.303mm→0.5mm、2厘=0.606mm→0.5mmと1厘の差があっても同じ0.5mmを表示するためです。補正入力の内部データの誤差は0.9厘(0.273mm)以下です。

[メモ]

巾寸法補正値は、補正値を入力した量に対してのみ有効です。その量の測定が完了し、次の量の測定を行うときにはこの補正値はすべて±0（補正なし）に戻ります。

●巾寸法補正値の確認方法

巾寸法補正値を確認するには、<測定画面>が表示されているときに「補正」キーを押します。「補正」キーを押している間だけ表示され、キーを離すと元の画面に戻ります。

<巾寸法補正値の確認画面>

量番号	左小間中	右小間中	基準
24			58
	+5	0	
	左(手先)	間中	右(手元)

まだ、測定されていない箇所の巾寸法補正値は、表示されません（上の例では、右（手元）箇所の寸法が、まだ測定されていないので、巾寸法補正値が表示されていません）。

#### 《4-4》寸法の手入力方法

通常は、測定カーソルを用いて巾寸法を測定していきませんが、「数値」キースイッチを用いて直接寸法を入力することもできます。

(1) 電源を入れ、畳番号・測定条件の設定までは、通常の操作を行います。

(前述の、《4-2》基本的な測定操作、操作手順(1)～(4)を行います。

(2) 左(手先)の巾寸法を測定する画面のときに、測定カーソルを使わずに、「数値」キースイッチまたは「+/-」キースイッチを押してください。すると、寸法の手入力モードに切り替わり、<寸法手入力画面>になります。

<寸法手入力画面>



この段階では①測定カーソルを動かす、②「消去」キースイッチを押す、のいずれかの方法で、「測定カーソル」を使った通常の測定方法に戻ることができます。

寸法の入力が終われば「入力スイッチ」を押してください。次の測定箇所に移ります。

[メモ]

入力可能範囲は下表の通り、基準ごとに決まっています。

基準	巾寸法の入力可能範囲
五八基準	-999～+400厘(1901～3300厘)
三六基準	-999～+300厘(2001～3300厘)
本間基準	-999～+150厘(2151～3300厘)
ミリ基準	652.0～999.5mm(2151～3299厘)

[メモ]

基準変換キー（「五八」、「三六」、「本間」、「ミリ」）を押せば、基準を変更することができますが、変換先基準の入力可能範囲に収まっていないデータがあれば、「キジュンヘンカンフノウナアタイガアリマス」という注意文が表示され、基準の変更はできません。例えば、五八基準で-999厘を入力したとき、ほかの基準の入力可能範囲に収まっていないので、基準の変更はできません。

(3) 同様に、右(手元)まで順に寸法を手入力にて入力します。

(4) 右(手元)を入力し終わると、<丈寸法入力画面>に移ります。

これ以降は、測定カーソルを用いた寸法測定方法と同じ操作となります。

(《4-2》基本的な測定操作、操作手順(7)～(8)を行います)

[メモ]

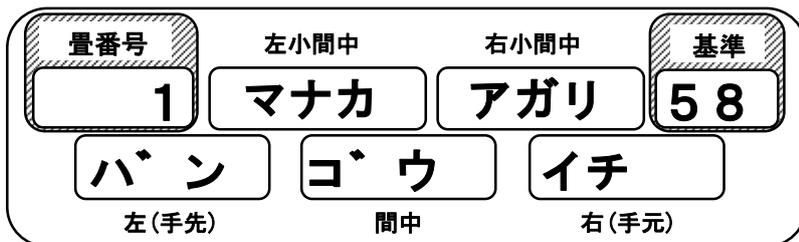
一枚の畳の測定において、「測定カーソルによる測定方法」と「寸法の手入力方法」の2とおりの方法を、織り交ぜて使うことはできません。

## 《4-5》ミリ単位測定

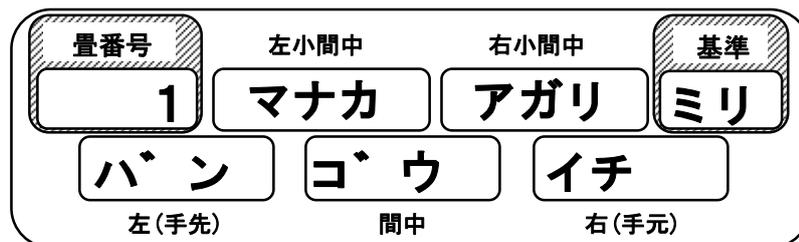
ミリ単位測定とは、測定した寸法をそのままミリ単位で表すものです。  
先端カギからカーソルまでの長さをミリ単位で表します。  
小数点以下は、「700.0」「700.5」など「.0」または「.5」のどちらかで表します。

### ＜ミリ単位設定 手順1＞

電源スイッチをONして、下記の画面の時に「ミリ」キースイッチを押してください。



下記の様に、[基準]の欄がミリに替わります。



巾寸法の測定画面の時に「ミリ」キースイッチを押しても、[基準]の欄がミリに替わります。

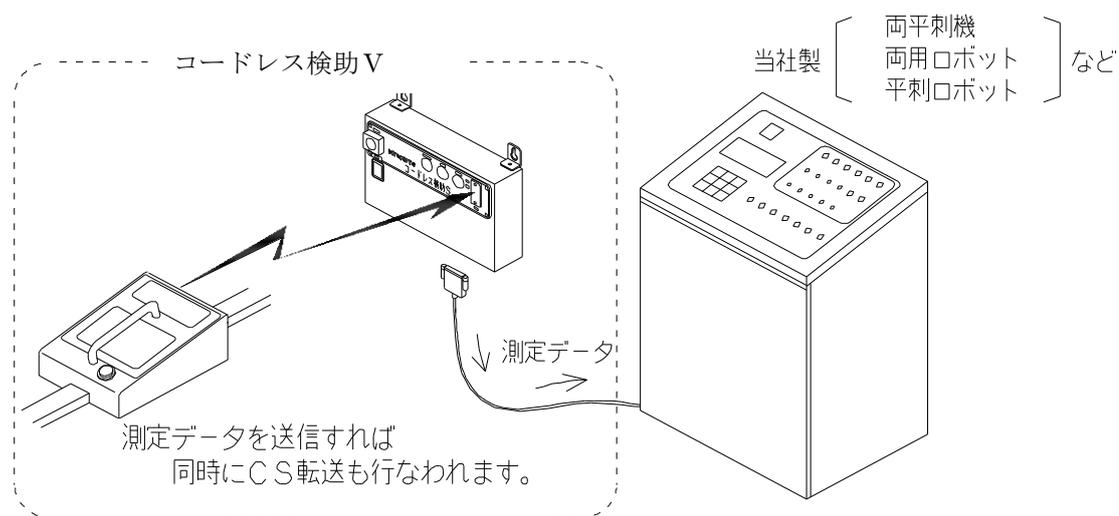
### ＜ミリ単位設定 手順2＞

元に戻したい場合は、「五八」を押せば五八基準になり、「三六」を押せば三六基準になり、「本間」を押せば本間基準になります。

## 【5】特殊な設定・使用方法

### 《5-1》「一枚送りモード」

- ・コードレス検助Vの測定部から本体部（受信部）に寸法データを送信すると同時に当社CSラインへCS転送することができます。



測定データはCSラインへCS転送されますが、「コードレス 検助V」の受信部内には記憶されません。

## 《5-2》測定部内の測定データ消去方法

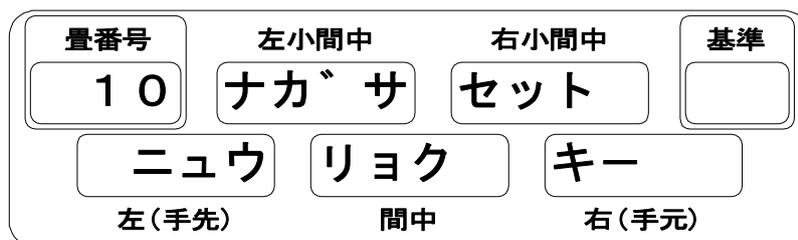
測定部内には最大 30 枚分までの測定データを記憶できます。

この記憶したデータを「測定データ全消去」または「測定データ部分消去」の 2 種類の方法で消去することができます。

### ＜測定データ全消去 手順 1＞

測定部の電源をいったん切り、再度電源を入れ直します。＜基準長さセット画面＞が表示されます。

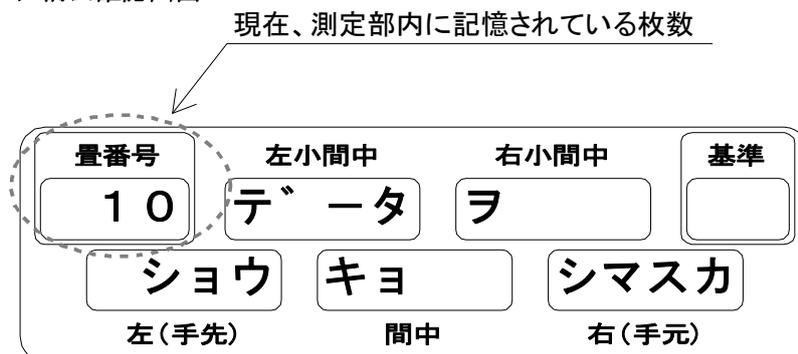
#### ＜基準長さセット画面＞



### ＜測定データ全消去 手順 2＞

ここで、「消去」キースイッチを押すと、＜測定データ消去確認画面＞が表示されます。

#### ＜測定データ消去確認画面＞



### ＜測定データ全消去 手順 3＞

消去してもよいデータかどうかを再度確認してください。

[注意]  
一旦消去したデータは復元できません。

### ＜測定データ全消去 手順 4＞

よければ、「消去」キースイッチを押してください。

記憶している寸法データが消去されて、＜基準長さセット画面＞に戻ります。

<測定データ部分消去 手順1>

「消去」キースイッチを押しながら、「電源スイッチ」をONすると、次の画面が表示されます。



<測定データ部分消去 手順2>

例えば、置番号 21～30 を消去したいとき、まず左(手先)に 21 を入力し、入力スイッチで確定します。次に右(手元)に 30 を入力し、入力スイッチで確定します。入力中の置番号を入力し直したいときは、「C」キースイッチを押すとクリアされ、入力し直すことができます。

[注意]  
一旦消去したデータは復元できません。



<測定データ部分消去 手順3>

手順2にて入力データを確定すると部分データ消去が行われ、次の画面を表示後、<基準長さセット画面>に戻ります。



### 《5-3》全体補正值の設定方法

全体補正機能を使うと、巾寸法を全体的に大きく、または小さく測定するように調整することができます。

#### [メモ]

全体補正值を設定した場合、実際に測定した寸法値に対して、補正值の分だけ、加算または減算した値を、寸法データとして記憶します。

#### [メモ]

全体補正機能は、補正值の設定が行われた後の測定から機能します。  
補正設定前に測定され記憶している寸法データには補正は適用されません。

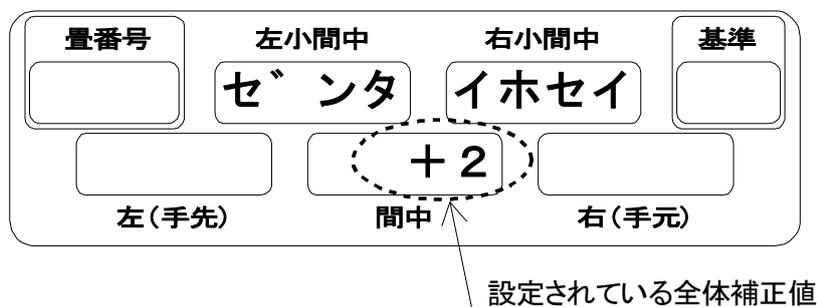
### ＜補正設定 手順1＞

一旦、測定部の「電源スイッチ」をOFFしてください。

「補正」キースイッチを押しながら「電源スイッチ」をONし、その約2秒経過後「補正」キースイッチを離してください。

下記の様に、＜全体補正值設定画面＞が表示されます。

### ＜全体補正值設定画面＞



### ＜補正設定 手順2＞

画面の下段中央に現在設定されている補正值が表示されます。

上記の画面では+2が設定されています。

変更する場合は、「数値」キースイッチ(0~9)と「+/-」キースイッチを使って、設定したい値を表示させて、その状態で、「入力スイッチ」を押してください。

画面の下段中央に表示している値が補正值として設定されます。

＜基準長さセット画面＞に戻ります。

#### [メモ]

大きめに測定したい場合は+ (プラス) の補正值を、小さめに測定したい場合は- (マイナス) の補正值を設定します。設定可能範囲は、(-20厘(二分小)) ~ (+20厘(二分大)) までです。

## 【6】その他の表示

量番号	左小間中	右小間中	基準
	データ	アリマセ	ン
左(手先)	間中	右(手元)	

測定部にデータがないにもかかわらず、「送信」キースイッチを押して測定データを測定部から受信部へ送信しようとしたときに表示されます。

量番号	左小間中	右小間中	基準
ナカ`サ	セット	エラー	
左(手先)	間中	右(手元)	

＜基準長さセット画面＞のときに、正しく長さ設定ができていません。この画面が表示されたときは、必ず電源を入れ直し「基準長さセット」を正しくやり直してください。

### 【△注意】

すぐに、「基準長さセット」をやり直してください。「基準長さセット」をやり直さなければ、正しい寸法は得られません。また、前回「基準長さセット」を行った以後に測定したデータが正しくない可能性があるため、寸法データを確認してください。

量番号	左小間中	右小間中	基準
ハン	コウ	ミス	
左(手先)	間中	右(手元)	

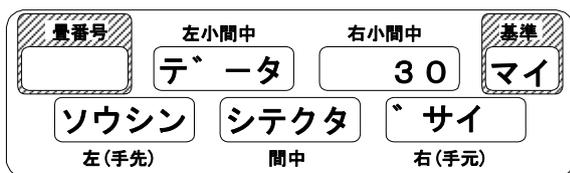
「量番号・測定条件設定」のとき、量番号として1～499以外の量番号を設定しようとした場合に、表示されます。量番号を変更してください。

量番号	左小間中	右小間中	基準
データ	ステニ	アリマス	
左(手先)	間中	右(手元)	

「量番号・測定条件設定」のとき、今から測定しようとしている量番号と、すでに測定部内に記憶されている量番号とが重複しています。量番号を変更してください。

### 【メモ】

量番号の重複がチェックされるのは、測定部内に記憶されている量番号のみです。本体部（受信部）へ送信済みのデータに対しては量番号の重複チェック機能は働きません。

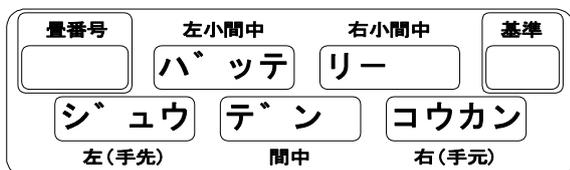


測定部に測定データが30枚分たまったときに表示されます。

処置方法としては、①測定部のデータを受信部に送信してから消去する。②測定部のデータを強制的に消去する（→《5-2》測定部内の測定データ消去方法、のいずれかを行います。

[メモ]

測定データを消去しなければ、新たに寸法を測定、記憶できません。



測定部の電池の残量が少なくなっています。充電済みのものに交換してください。

[メモ]

電池を取り外しても、測定部に記憶されているデータが失われることはありません。

[メモ]

電池充電警告表示がでる場合でも、「入力スイッチ」を押せば測定を続けることができますが、早めに充電してください。

## 【7】 使用できる電池と充電器

### <<7-1>> 充電注意事項

電池と充電器は同梱されている物を使用してください。

電気量販店で追加購入される場合は、同梱されている電池と充電器を店員に見せて、充電式ニッケル水素電池 単三型 (1.2V 1950mAh) を4本と、これを充電できる充電器を購入してください。充電式ニッケル水素電池が入手できない場合は、充電式ではないアルカリ乾電池 単三型 (1.5V) を使用することもできます。

この場合、コードレス検助Vの動作継続時間が短くなります。

また、購入の際は信頼できる日本のメーカーのものをお勧めします。

#### 【△警告】

充電式ニッケル水素電池とアルカリ乾電池などを混合して、本器の測定部の電池ケースに装着しないこと。

#### 【△警告】

充電式ニッケル水素電池、およびアルカリ乾電池などの電池のプラスとマイナスを逆にして、本器の測定部の電池ケースに装着しないこと。

#### 【注意】

充電式ニッケル水素電池は繰り返し使えるものですが、寿命がある消耗品です。早めの買い替えをお勧めします。

## 【8】 トラブル対処方法

何らかのトラブルが発生したと考えられるときは、以下の原因、対処方法を確認してください。

	症状	原因、処置方法
測定部	電源が入らない。	<ul style="list-style-type: none"> <li>●電池が正しく装着されていない。 →電池を正しく装着する。</li> <li>●電池が消耗している。 →電池を充電、または交換する。</li> </ul>
	液晶画面が表示されない または、うすい。	<ul style="list-style-type: none"> <li>●気温が低すぎる。 →0℃～35℃の動作温度で使用する。</li> <li>●電池が消耗している。 →電池を充電、または交換する。</li> </ul>
	測定誤差が大きい	<ul style="list-style-type: none"> <li>●基準長さセットが正しくできていない。 →電源を切り、最初からやり直す。</li> <li>●測定カーソルの当て方が悪い。 →測定カーソルは床端にしっかりと押し当てる。</li> <li>●全体補正值が書き変わっている →全体補正值を確認・再設定する。</li> </ul>
	充電してもすぐに使えなくなる	<ul style="list-style-type: none"> <li>●電池が寿命になっている。 →新品に交換する。</li> </ul>
受信部	電源が入らない。	<ul style="list-style-type: none"> <li>●AC100Vコンセントに接続されていない。 →AC100Vコンセントにきちんと接続する。</li> </ul>
	受信部が異常な反応をする	<ul style="list-style-type: none"> <li>●受信窓に直射日光、または日光の強い反射光が当たっている。 →強い光が受信窓に当たらないよう、日影をつくる。</li> <li>●近くでテレビ・ビデオなどのリモコンを使っている。 →テレビ・ビデオのリモコンを使わないようにする。</li> </ul>
通信	測定データが受信部に送信できない または [受信完了LED(緑)]が点灯しない または [受信中LED(黄)]が点灯し、 [受信エラーLED(赤)]が点滅する	<ul style="list-style-type: none"> <li>●測定部の送信窓が、受信部の受信窓へ向いていない。 →測定部を受信部の方へ向ける。</li> <li>●測定部と受信部の距離が遠い。 →赤外線方式の場合は4m以内に近づく。 →無線電波方式の場合は10m以内に近づく。</li> <li>●受信部が測定部の正面にいない。 →できる限り受信部の正面から送信する。</li> <li>●送信部と受信部との間に障害物がある（または人が通った）。 →送信部と受信部との直線上の障害物を取り除く。</li> <li>●送信窓、受信窓が汚れている。 →窓のゴミ、ホコリ等を取り除く。</li> </ul>

	症状	原因、処置方法
通 信	測定データが受信部に送信できない または [受信完了LED(緑)]が点灯しない または [受信中LED(黄)]が点灯し、 [受信エラーLED(赤)]が点滅する	<ul style="list-style-type: none"> <li>●受信窓に直射日光、または日光の強い反射光が当たっている。 →強い光が受信窓に当たらないよう、日影をつくる。</li> <li>●受信部とCSマイコンがきちんと接続されていない。 →接続ケーブル（または光ファイバー）が確実に接続されているかどうかを確認する。 →RS232C切り替え器などの切り替えがあっているか確認する</li> <li>●CSマイコンの電源が入っていない。 →CSマイコンの電源を入れる。</li> <li>●受信部に20畳以上のデータを一度に送信した。 →[運転完了LED(緑)]が点灯後、送信してください。</li> </ul>
	データが受信部に入っていない	<ul style="list-style-type: none"> <li>●測定したデータを受信部へ送信していない。 →送信の操作を行う。</li> <li>●送信時に受信部の[受信完了LED]を確認していない。 →送信後は、必ず[受信完了LED]の点灯を確認する。</li> </ul>
C S 転 送	データがCSマイコンに入っていない または CSラインに転送できない [受信中LED(黄)]と[受信エラーLED(赤)]が点滅する	<ul style="list-style-type: none"> <li>●測定したデータを受信部へ送信していない。 →送信の操作を行う。</li> <li>●送信時に受信部の[受信完了LED]を確認していない。 →送信後は、必ず[受信完了LED]の点灯を確認する。</li> <li>●受信部とCSマイコンがきちんと接続されていない。 →接続ケーブル（または光ファイバー）が確実に接続されているかどうかを確認する。 →RS232C切り替え器などの切り替えがあっているか確認する</li> <li>●CSマイコンの電源が入っていない。 →CSマイコンの電源を入れる。</li> <li>●光ファイバーを使用されている場合のみ光ファイバーモデムのLEDがコードレス検助V側、CSマイコン側の両方が点滅していない、または、片方しか点滅していない。 →光ファイバーが確実に接続されているかどうかを確認する。 →コードレス検助V側の光ファイバーモデムには電源アダプタが必要です。接続されているか確認する。（CSマイコン側の光ファイバーモデムには、電源アダプタは、必要ありません。）</li> <li>●CSマイコン側が小間中対応機種と小間中非対応機種の2台以上ご使用されているお客様へ コードレス検助V本体部と小間中対応機種でCS通信を行うと、本体部内で小間中通信フラグが立ちますので、その後、コードレス検助V本体部と小間中非対応機種でCS通信されるとエラーが出てしまいます。コードレス検助V本体部のCS通信先を、小間中対応機種から小間中非対応機種へ切り替えられる場合、コードレス検助V本体部の電源を入れ直してください。</li> </ul>

## 【9】仕様、付属品、オプション

### ●測定部仕様

電 源	ニッケル水素電池 単三形 1.2V 1950mAh を4本直列
測定可能範囲	二尺二寸 ~ 三尺三寸 ( 2200厘 ~ 3300厘 ) (尺貫法) 667mm ~ 1000mm (メートル法)
測定精度	±1厘 (尺貫法)、±0.5mm (メートル法)
測定単位	1厘単位 (尺貫法)、0.5mm単位 (メートル法)
対応する畳基準	五八 (五尺八寸)、三六 (六尺)、本間 (六尺三寸)
測定可能箇所	一畳：間中 (3箇所)、小間中 (5箇所) 半畳：間中 (2箇所)、小間中 (3箇所)
補正範囲(各箇所個別)	±5分 (尺貫法)、±15.5mm (メートル法)
補正範囲(全体)	±2分
記憶容量	30枚分 (半畳モノも1枚と数える)
データ記憶時間	10年
赤外線到達距離	4m (受信部の真正面で、間に障害物がない場合)
無線電波範囲	10m (受信部の真正面で、間に障害物がない場合)
連続使用時間	8時間 (バッテリー満充電時)
外形寸法	1100mm (縦) × 160mm (横) × 130mm (高さ)
重量	2kg
使用温度	5~35℃ (ただし、結露なきこと)

### ●受信部仕様

電源電圧	AC100V±10%、AC200V±10%
記憶容量	0枚
赤外線受信範囲	4m (受信窓の真正面で、間に障害物がない場合)
無線電波範囲	10m
外形寸法	135mm (縦) × 265mm (横) × 45mm (高さ) (壁掛用金具を除く)
重量	1.5kg
使用温度	5~35℃ (ただし、結露なきこと)

### ●標準付属品

- ・急速充電器セット (急速充電器1台とニッケル水素電池単三形4本)
- ・予備電池 (ニッケル水素電池単三形4本)
- ・取扱説明書

### ●関連オプション

- ・CS転送用RS-232Cケーブル (長さ1.5m)
- ・CS転送用RS-232Cケーブル (長さ10m)
- ・光通信モデム、光ファイバーケーブル (遠距離CS転送用)
- ・両用ロボット用固定金具



製品に関するお問い合わせ

KLASS 株式会社 畳事業部

**0791-62-1772**

土日祝日を除く 10:00~17:00

メンテナンスに関するお問い合わせ

KLASS 株式会社 サービス部

**0791-65-2336**

右の二次元コードからも連絡いただけます。



**KLASS株式会社**

〒679-4195 兵庫県たつの市龍野町日飼 190